

宮田利男さん



1952年10月29日生まれ。秋田県大曲市(現在の大仙市)出身の元将棋棋士。1968年奨励会に入会。1972年10月プロ入り。2017年5月、64歳で引退。通算539勝、最終段位八段。生粋の居飛車党。多くの若手棋士を育成し、伊藤匠二冠などの師匠としても有名。世田谷区三軒茶屋で「三軒茶屋将棋倶楽部」を運営し、将棋の普及活動に尽力している。

ら、伊藤さんが羽生さんと将棋盤に向かって
いる写真が残っていました。覚えていらっしゃいますか？

伊藤さん 覚えています。羽生先生の前に座って、子どもたちが一人ひとり、かわるがわる一手ずつ順番に指すという形でした。羽生先生の前で良い手を指そうと意気込んで行ったら、なんかもうすでに結構メチャクチャな盤面になってしまっていて（笑）それがちょっと残念だった記憶があります。

区長 伊藤さんが将棋を始めるきっかけは、どんなことだったのですか。

伊藤さん 5歳の時のクリスマスに、「将棋の盤と駒がほしい」とサンタクロースにお願いしたみたいで。どうしてお願いしたのか自分ではあまり覚えていないのですが、それで始めました。

区長 宮田先生の教室の門をたたいたのはいつですか。

伊藤さん 将棋を始めて3か月くらい経った頃です。初めは父がルールを教えてくれたのですが、すぐに勝てるようになって。家の近所に師匠の教室があって、行ってみようということになりました。

区長 宮田先生、伊藤さんはどんなお子さんでした？

宮田さん 今とは違い、ほっぺがふっくらしているかわいい子どもでした。どのお子さんも強くなってくると、だんだん頬がこけてくるものなのですが、伊藤さんもプロになりたい、奨励会に入りたいと言うようになって、その通りになりました（笑）子どもの頃から落ち着いていて、わいわい騒いでいた記憶はあまりありませんね。

区長 将棋の才能というのは、その当時からお感じになっていましたか。

宮田さん 将棋で大切なのは集中力です。この子は強くなるだろうなという子は、集中力が違います。伊藤さんもそういう子の一人でした。それと、将棋が好きでたまらない。そういうお子さんは、目つきや雰囲気が違いますよね。でも私は彼に、「プロになりたいなんて言わずに、勉強して東京大学へ入りなさい」と話したんです。

区長 えっ、それはまたどうして。

宮田さん 自分でもよく分からないのですが（笑）、東日本大震災があった頃でした。だから

今は将棋に打ち込むときではないんじゃないかなと思ったんですよ。

区長 伊藤さんはその時のことを覚えていますか。

伊藤さん そうですね。「勉強して将来は医者になるんだぞ」と、ずっとおっしゃっていただいたのを覚えています（笑）

区長 でも、いくら言われても、やはり将棋の方がよかったわけですね。

伊藤さん 最終的には将棋が好きという気持ちが大きかったですね。

区長 将棋の魅力はどこにあるのでしょうか。

伊藤さん 将棋は自分一人で考えて、先の先まで考え抜いて、指し手を選択していきます。そうした自分だけで創り上げていく世界が、おもしろいと感じるところだと思います。

区長 自分だけで創り上げていく……。

伊藤さん 子どもの頃は相手に勝つという気持ちでやっていたのですが、プロになって、創るという考えが生まれてきたように感じます。

盤面に向かったら大人も子どもも 対等に勝負する将棋の世界

区長 宮田先生は、教室にやってくる子どもたちをどのようにご覧になっていますか。

宮田さん 小学1年生でも2年生でも、大人と対等に向き合えるのが将棋ですよ。子どもが大人と対等というのは、ほかの世界にはちょっとないことです。

区長 私も小学生に将棋で負けて、「全体をよく見た方がいいよ」と言われました（笑）

宮田さん 伊藤さんが奨励会に入る前だと思うのですが、ある大きな会社の役員の方と道場で対局したんです。その方は大学生の時に将棋部のキャプテンだったそうで自信があったと思うのですが、勝ったのは伊藤少年でした。対局後、その方が伊藤少年に聞くわけですね。「僕のどの手がいけなかったでしょうか？」と。すると伊藤さんは「この手はありがたかったです」と答えている。聞いていておかしくなりましたが、老若男女関係なく、強い者を認めて教えを乞う。これはよいものだなと思いました。

区長 宮田先生の教室は、子どもたちがものすごく強いと聞いています。また、棋士として活躍されている方もたくさん輩出されています。

宮田さん 最初に棋士になったのは斎藤明日斗、次は本田奎。みんな活躍しています。

区長 伊藤さん、宮田先生のご指導の中でどんな点が一番印象的でしたか。

伊藤さん 師匠には将棋とダジャレをたくさん教えていただきましたが（笑）、それ以外に将棋の心構えを教えていただき、それは今でも活かされていることが多いと感じます。

区長 心構え、ですか？

伊藤さん 将棋は「勝ちたい」ではなく、「強くなりたいたい」と思うことが大事だとおっしゃっていただきました。

宮田さん 強くなるためにはどうすればいいかを考えた方がよいということですね。

区長 伊藤さんも強くなるためには、AIを使って研究を深められたり、AIを参考に自分の棋譜を作られたりしている世代だと思うのですが、AIをどのように捉えていますか。

伊藤さん AIは本当に強い。棋士のタイトル

ホルダーが強いと感じる実力を持っています。このAIを活用することで、棋士はさらに実力を高め、よい手を追求していくことができるのではないかと思います。

宮田さん AIを参考にするのはよいですが、実力のない者がAIの推奨する手を鵜呑みにして、それを暗記するようでは本末転倒です。強くなるために努力すること、自分で考えることが、将棋ではもっとも大事なことです。

区長 AIは必要な時代だと思いますが、将棋のおもしろさや意外性とAIは、相容れない感じもします。勝負において迷ったり、考え込んだり、苦しんだりする中に人を感動させるドラマが生まれるのですし、そこを我々は応援したいと思うわけですよね。

宮田さん AI同士で勝負しても、誰も関心を持ちません。人間と人間がやるからおもしろいのです。

伊藤匠さんのさらなる活躍で、 世田谷区の将棋文化の 裾野を広げる

区長 世田谷区では「誰もが文化・芸術を楽しめるまち」を掲げています。将棋文化の裾野をさらに広げ、深めていくためにはどんな取り組みがあったらよいでしょうか。

宮田さん それは伊藤匠の活躍ですね（笑）伊藤さんは弦巻小学校の出身ですが、うちの教室にも弦巻小学校の子どもたちが何人も来ています。彼らに「どれくらい強くなりたい？」と聞くと、「伊藤さんに勝てるくらい」と答えます。こういう気持ちが将棋文化を支えていますね。

区長 伊藤さんには今後、区が主催する子どもたちを対象とした取り組みにもご協力いただきたいと思っています。今年の抱負をお聞かせいただけますか。

伊藤さん 今年はこれまで以上に、将棋に集中する年にしたいと考えています。まだまだ自分には、自分自身の将棋を強くする余地が残っていると実感することが多く、もっと実力をつけることができれば、さらにおもしろい将棋をお見せできるのではないかと感じています。

区長 では、伊藤さんを育てた宮田先生の今年の抱負をうかがいたと思います。

宮田さん 子どもたちと変わらず将棋をやりたいですね。

区長 今日は貴重なお話をありがとうございました。

伊藤さん・宮田さん ありがとうございました。



12面のアンケートに
ご回答いただいた区内在住・在勤・
在学の方(抽選4人)へ、
伊藤匠さんのサイン入り色紙
をプレゼント!

詳しくは、12面をご覧ください。